

令和3年5月16日

## 「高山市民の森 森林教室」実施報告書

(森の散策と天ぷらパーティー)

1. 実施日時 令和3年5月16日(日) 10時～15時
2. 参加講師名 主担当(中川、朝比奈、小嶋) アシスト会員(青野、大石、越智、小久保、佐野、杉山、高橋、早川、矢下、望月)
3. 参加者 8グループ27人(大人15人、子ども12人)
4. 概要

予定した参加者のうち1家族4名のキャンセルがあり、8グループ27名の参加者となった。天候が心配されたが雨は降らずに無事に開催できた。コロナ対策を考え密にならないようになるべく家族単位になるよう6班に分けてインストラクターを配置した。今回は珍しく大人だけの家族が2グループあった。午前の散策の前に、山菜採集の注意事項・マナー等を説明して必要以上の採集をしないように参加者に促した。

大人だけのグループとなった1班では健全な森の状態や、針葉樹はなぜ真っ直ぐに伸びるのか、枝打ちや、間伐の必要性について説明した。またクサギの臭いを嗅いでもらい、天ぷらにした時の味についても確認してもらった。『美味しかった』という感想だった。このような大人だけのグループ構成での森林教室も大切だと思った。

2班はおばあさんとお母さんと幼児2名のグループだった。2歳の男の子が車酔いで嘔吐していたので心配したが、森では元気になったようで安心した。高山の池ではモリアオガエルの卵塊やイモリに、どこの班の子どもも大喜びだったようだ。3班では中間展望台で”ヤッホー!!!”をやってこだまが返ってくるのを楽しんだり、ピクライト玄武岩の採集をして宝物のようにして持ち帰ったりした。

4班は高山が初めてという家族4人のグループで、山頂を目指して歩いた。途中でタラの芽をつまんだり、スギやヒノキの赤ちゃんを見つけたり、クロモジの茎の香りを嗅いだり、カモシカに出会ったりと素敵な体験をしながら頂上に着いた。そこからは静岡の町が一望でき、自分の家を探したりした。

6班は両親と6歳の男の子、3歳の女の子のグループで、食べられる野草を探しながら高山の池に向かった。途中でヒメジョオン、ドクダミ、ヨモギを見つけて採取した。そこで、ヒメジョオンとハルジオンの違いを覚える方法について子どもたちに伝授。――『ハルちゃん(赤い洋服を着た女の子)は、お財布空っぽ、うなだれる。』子どもたちは『ハルちゃん、ハルちゃん』と言って、ハルジオンを完全に覚えてしまった。

7班は2家族6名で、そのうち1家族はお母さんが中国から帰化した方だった。森で

は、サンショウ、クロモジ、クサギ、ヒノキの匂いを嗅いでもらう嗅覚体験をしてもらった。また、山菜の中にある小さなバッタを見つけて、『この虫、天ぷらになったら可哀そう。』と男の子、『この森は初めて、森の香りがするから素敵!』と女の子。みんな感受性の強い子どもたちだった。『ドクダミは美味しい』というインストラクターのふれ込みに、皆さんドクダミにも挑戦してみた。しかしドクダミの匂いが残ってしまい、美味しくはなかったようだ。ちなみに中国には天ぷら料理はないのだそうだ。

散策で集めた野草や山菜の中に食べられないものがないかどうか、先ず中川インストラクターがチェックし、それらを水洗いして天ぷらに揚げた。集めた食材は、ユキノシタ、ドクダミ、オオバコ、ヒメジョオン、ハルジオン、ヨモギ、タンポポなどの野草、それにクサギ、ハナイカダ、タラノキ、クロモジ、アマチャヅル、アケビ、サンショウ、オカウコギなどの芽や若葉だった。このうち人気一番はやはりタラの芽、クサギも好評であったがドクダミは不評だった。インストラクターが持参したカキの葉、ウコギも好評だった。

食後のレクチャーとして木偏の付く漢字を集めて何と読むか、木の名前は?などを勉強して天ぷらパーティーはお開きとなった。新緑の森の中での体験に、参加者は皆さん『楽しかった。』と言ってくれた。コロナ禍の中で、参加者のストレス解消になった一日ではなかったかと思った。

#### 《実施状況 スナップ写真》





食べられる野草か調べる



テラスで天ぷら揚げたよ



みんなで揚げたよ



試食、美味しい！



僕たちもコックさん



木のお勉強

(報告とりまとめ： 小嶋 博)